

土佐日記 門出

①男もすなる日記といふものを、女もしてみむとて、するなり。

②その年の十二月の二十日余り一日の日の戌の時に、門出す。

③そのよし、いささかにものに書きつく。

④ある人、県の四年五年果てて、例のことどもみなし終へて、解由など取りて、住む館より出でて、船に乗るべき所へわたる。

⑤かれこれ、知る知らぬ、送りす。

⑥年ごろよくくらべつる人々なむ、別れがたく思ひて、日しきりに、とかくしつつ、ののしるうちに、夜更けぬ。

⑦二十二日に、和泉の国までと、平らかに願立つ。

⑧藤原のときざね、船路なれど、むまのはなむけす。

⑨ 上・中・下、酔ひ飽きて、いとあやしく、潮海のほとりにて、あざれ合へり。

⑩ 二十三日。八木のやすのりといふ人あり。

⑪ この人、国に必ずしも言ひ使ふ者にもあらざなり。

⑫ これぞ、たたはしきやうにて、むまのはなむけしたる。

⑬ 守柄にやあらむ、国人の心の常として、「今は。」とて

見えざるを、心ある者は、恥ぢずになむ来ける。

⑭ これは、ものによりてほむるにしもあらず。

⑮ 二十四日。講師、むまのはなむけしに出でませり。

⑯ ありとある上・下、童まで酔ひしれて、一文字をだに知らぬ者、

しが足は十文字に踏みてぞ遊ぶ。